

ご挨拶

—— 2018年9月1日付で理事長に就任いたしました ——

海外投融資情報財団
【理事長】

中西 孝平

Kohei Nakanishi



VUCA (Vulnerability, Uncertainty, Complexity, Ambiguous) の世界といういわれ方をする。この5年商社という世界に身をおいてきたが、今こその言葉が正鵠を得ていると感じる。

多くの組織では、権力の集中に対して生理的に拒否反応を起こす傾向があるが、ボトムアップの民主的なプロセスがいいかという、必ずしもそうでない。何せ時間がかかる割には物事が決まらないことも多く、商機あるいは勝機を逃すことがある。その点権力が集中している組織の場合は、権力者が賢人である限りにおいては、効率的で目標に素早く到達できる利点もあり、競争社会を生き抜く成果をもたらすことも決して珍しくない。

それは国の発展においても同様である。20世紀の新興国の発展において、古くはシンガポールのリー・クワンユーやフィリピンのマルコス、インドネシアのスハルトなどの開発独裁は、その典型であろう。そして忘れてはならないのが、中華人民共和国そのものである。これは個人崇拜の域を超えて、国家としての独裁体制を堅持し、そして見事なまでの急速な経済発展を成し遂げてきた。

しかしVUCAの世界においても、果たして過去の成功事例はそのまま通用するのだろうか。私が最初に海外駐在したインドは、中国と並ぶ人口大国であるが、自ら民主国家として最大の人口の国と称しているがごとく、中国を意識して民主主義が曲がりなりにも貫徹していること

を誇りにしていた。そして、ようやくこの国にも経済発展の成果が目に見えてきた。それと対照的で心配なのは、トルコのように思える。今世紀初から2回欧州に駐在したときの印象に強く残るのは欧州の東端というかアジアの西端に位置するこの国である。エルドアンの高いリーダーシップは危なっかしくもあったが、所得向上などの成果もあげてきた。しかし、ここにきてかなりきわどい状況にあるとみる。そしてNATOと対立する違った意味での強権国家ロシアとの距離感を急速に縮めようとしている。トランプのアメリカがいいとは決して思わないが、それでもトランプは中間選挙で勝てる保証はなく、各地での反対の声は掻き消されることはない。

VUCAの世界では、やはりしなやかに多様なものを呑み込む包容力のようなものが必要なのではないだろうか。民主主義のもとでは、人々が決して抑圧されることなく自由に声を発信して行動もできる。確かにまどろっこしいところはあるが、多様性を尊重した民主主義は優れた制度だと確信している。

そして、それを支えるのは紛れもなくその構成員たる人々の確かな洞察力と民度である。その力を涵養するには客観的な情報をくまなく提供することが最低限必要である。

海外投融資情報財団の理事長就任に当たり、会員の皆様のニーズに合った情報の提供に努めることを肝に銘じつつ、こんなことに思いを馳せている。